

# うえるうえる

Well Well

2013年 夏号

第39号



## ご挨拶

坂井瑠実クリニック 院長 喜田智幸



今年も暑い季節が、やってまいりました。皆様いかがお過ごしですか。さる4月27日、28日には、坂井瑠実クリニックが主催で、在宅血液透析研究会を開催しました。今年は例年にも増して盛会となりました。無事に会を運営できたのは、クリニックのスタッフの頑張り、皆様のご協力があったことです。本当にありがとうございました。

今回のうえるうえるの特集にありますように、年々、在宅血液透析への関心が高まっています。それは、長い時間十分に透析を行うことが、透析患者さんの寿命をのばし、元気さを高めることが分かってきたからです。坂井瑠実クリニックでは、在宅血液透析だけでなく、施設で行う透析でも長時間透析を推奨しています。クリニックでの長時間透析患者さんのデータを解析したところ、短い時間の透析患者さんに比べて、とても良い状態であることが分かりました。このことは、世界で最も権威ある透析学会の一つである、ヨーロッパ透析・移植学会(EDTA)にも認められ、5月に芦

屋坂井瑠実クリニックの田中院長が、トルコのイスタンブールで発表しました。

ところで5月19日には、毎年楽しみにしている友愛会のバス旅行がありました。今年は京都の嵐山、太秦の東映映画村に行きました。おいしい食事をし、お話をし、友愛会の方々と本当に楽しい時間を過ごすことができました。友愛会に、もし入会されていない当院の透析患者さんがいらっしゃったら、ぜひ入会することをお勧めします。患者さん同士で、いろいろ有用なお話を聞け、楽しい行事に参加することができますよ。

坂井瑠実クリニックは、平成10年10月10日に開院しました。もう少しで、開院15周年となります。皆様のおかげで、ここまでやって来られました。そして、もっと多くの方に良い透析をしていただきたい思い、神戸市東灘区本山に新たに施設を開院します。友愛会の楽しい行事も、元気であればこそ。これからも、応援をよろしくお願いします。

# 第16回 在宅血液透析研究会

坂井瑠実クリニック副院長 岡本久美

平成25年4月27日、28日の2日間にわたって、この神戸で当院の喜田智幸院長が大会長となり、第16回在宅血液透析研究会が開催されました。2日間の間に全国から合計600人以上の来場者があり、当院の参加者も含めると700人近い大盛會となりました。これまで在宅血液透析へあまり関心を示してこられなかった近隣の大学病院や総合病院の先生方の参加もあり、特別講演や一般演題でも活発な意見交換が行われ、在宅血液透析への期待の高まりを感じさせる会となりました。

1日目はまず喜田先生による開会のあいさつと、矢吹病院の政金先生からのお話の後、特別講演としてトロント大学からお越しいただいたチャン先生と看護師のディガマさんにカナダの在宅での連日夜間透析の成績について伺いました。レシーバーを用いて同時通訳での聴講でしたが、用意したレシーバーが足らなくなるほど盛況で、医療従事者だけでなく患者さんもノートをとり熱心に聞き入る姿がありました。講演後の質疑も活発で、チャン先生も講演の手ごたえを感じて喜んでおられました。

シンポジウム1「在宅血液透析のトレーニングおよび維持管理」、イブニングセミナーでリンとカルシウムの講演の後、シェラトンホテルに移動して情報交換会が行われました。坂井先生の乾杯のあいさつの時には華やかなドレス姿の歌手が「乾杯の歌」を歌いあげる演出もあり、会は医療従事者や患者、地域の枠を超えておおいに語り、盛り上がりました。

2日目はシンポジウム2「私の在宅血液透析」で患者さんが演者となって体験を語っていただきました。35年間在宅で血液透析を継続しておられる方のお話は、介助者として支えて来られたご主人とのご夫婦の絆も素晴らしく、感動的でした。当院代表として深井さん、山根さんにお話いただきました。最後の米山さんのお話の中には骨の代謝やシャント感染の問題等、今後解決していかなければならない課題の指摘がありました。

お昼は岡本と杉本がランチョンセミナー「世界に学ぼう、在宅血液透析」を行いました。

お昼は岡本と杉本がランチョンセミナー「世界に学ぼう、在宅血液透析」を行いました。

## 第16回 在宅血液透析研究会



会の開催にあたり1年以上前から準備を重ねてきましたが、この会で私たちが最も伝えたかったことは当院の在宅血液透析の基本の「十分に透析をすることで安全に治療ができて元気になれる」ということと当院の患者さんたちが自分の意思で自分の生活スタイルに合わせて透析を行いとても元気であるということでした。そこで、当院の患者さんの透析のお部屋を写真で展示したところ、これが大好評! 写真を写真に撮ろうとする人が続出でした。ごく普通の住宅で自然に生活の空間の中に透析が組み込まれていることが伝わったと思います。また、各機械メーカーさんには自社の機械を使って在宅のモデルルームを作ってみて下さいというお題を出し、工夫して展示していただきました。全国から体験談を募集したところ、思いのほかたくさんお寄せいただきプログラムとは別にまとめた体験談集も大人気でした。



患者様の自宅透析部屋の写真展示



メーカーによる展示

会の後、「勉強になりました」「手作りの温かい会でしたね」「自分の施設でも是非これから在宅血液透析をはじめたい」「体験談集を送ってください」「自己穿刺のDVDをいただけませんか」「ランチョンセミナーのお弁当がおいしかったです。」「就職を希望します」などなど様々なお問い合わせや反響がありました。それもこれも患者の皆様が惜しみなく協力して下さった結果であると思います。本当にありがとうございました。スタッフ一同、大変でしたがとても良い経験をさせていただきました。

櫻井 めぐみ

6月27日～28日開催の第16回在宅血液透析研究会に参加しました。私は芦屋でオーバーナイト透析を受けており、現段階で在宅透析を考えているわけではありませんが、プライミング作業など持病のリウマチでできない手技はありますが、テープカットや自己穿刺など自分で出来ることはさせてもらっていますので、透析にかかるすべての作業を自分でされておられる在宅透析の皆さんがどのように工夫されて透析されているのか、施設透析でも使える何か良いアイデアがあるのではないかと思います、興味津々で参加させていただきました。日曜日は透析があったので、初日の発表しか聞けなかったのですが、正直、学術的な発表は難しくよく分らなかったのです(笑)。でも会場内には患者会やネットで知り合ったお友達も多く参加されていて、透析の事やその他色んなことを話すことができ、住んでいる地域や在宅管理施設が違うだけで色んな違いがあることを知ることもでき勉強にもなりました。企業展示ブースでは、ベッドはもちろん、コンソールやその他色んな展示があったので、好奇心旺盛の私は、そこでメーカーさんに質問したり触らせてもらったり楽しい時間を過ごさせてもらいました。ブースで一番気になったのは、自己穿刺や回収をする時に使う器具で欲しいなあ～と思ったけど、私は1つで良いのにセット販売なので参加されていた在宅透析の人に「一緒に買おうよ～」って言うてみましたが、みんな乗ってくれなくて残念でした(笑) 土曜の夜の親睦会では全国から集まっ



てくださった先生方のパワーに圧倒されましたし、その後には透析患者仲間15名程で開いた二次会でも在宅透析の話の聞き、私はそれを自分の生活に置き換えてみながら聞いていたのですが、うちは夫婦で透析患者でするので二人で在宅透析するとなると、医療材料を在庫できるスペース、水道や電気料金、ゴミ関係もすべて2倍になるわけですし、夫婦で透析している私たちにはまだまだハードルが高いなあ～って思っちゃいました。もう少し、水道や電気料金の補助があったり、自宅以外での医療材料保管スペースの確保やそれを運ぶための労力など私が在宅導入を考えるには色んな問題があると感じました。



展示会場



在宅血液透析患者様相談コーナー

普段、クリニックでも在宅をされている皆さんと接することも少なく、なかなか経験者を生の声で聴くこともなかったので今回、いろんな意味で勉強になりましたし、吸収できることもたくさんありました。一番感じたのはそれぞれが独自にアレンジした透析環境を作り、それをサポートする医療スタッフ、在宅透析は患者も含めたチーム医療で成り立つ医療であるということです。施設透析の私も見習う点がたくさんありましたし、今回は私自身とても有意義な時間を過ごせたと思います。

最後にお忙しい中で準備段階から研究会を進めてこられた御影・芦屋のクリニックのすべてのスタッフの皆様、ご苦労様でした。そしてありがとうございました。

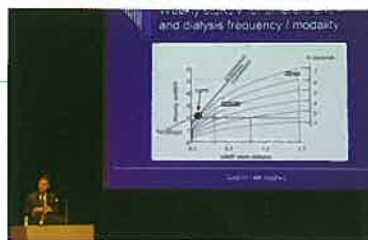
匿名

坂井瑠実クリニック幹事の二日間にわたる研究会にHHD患者として参加できたことは大変嬉しいことでした。

発表者の方々の中身の濃い色々な取り組みを聞くことができ良かったです。

カナダのCHAN先生と看護師の方の講演は、初めて使う同時通訳器で聞き、連日長時間透析を夜間に行っているカナダの在宅透析事情が印象的でした。

そして、アメリカのHHDのシステムワンという専用機器の報告は衝撃的でした。今の日本の透析機械・水処理機械は、よりコンパクトに、さらに簡単な操作手順で短時間にできるようになることが望まれます。特に冬場、水温が低いと透析濃度がなかなか上がらず、準備に夏場より倍ほど時間がかかります。



チャンDr. 特別講演

またアメリカでは、全米6000人のHHD患者に対して透析機器関連の24時間電話連絡対応を、スタッフ8人で機能的に実施され、HHDを支えていると思いました。日本でももっとHHDの患者が増えてきたら、徐々に進んだものになっていくと期待が持てます。

5名のHHD患者の発表は、35年目の方、治療の課題など身近な問題として聞き応えのあるものでした。別冊として体験談集もあり、何度も読み返しました。

私は機械音痴で不器用ですが、それでももうすぐHHDを始めて丸2年が過ぎます。やってみたくて思われる方は是非挑戦することをおすすめします。

この研究会の準備の段階から大変ご苦労いただいた先生方、スタッフの皆さんに心からお礼申し上げます。



講演会場内

## HHD研究会 チャン先生をお招きして

第16回在宅透析研究会の特別講演は クリストファー T. チャン先生(トロント総合病院、トロント、カナダ)が担当された。筆者は喜田会長より、チャン先生とセリーヌ デーガマ看護師(トロント総合病院、在宅透析の指導について講演)のお世話係を仰せつかった。お二人はトロントから成田経由で大阪空港に着かれ、4月26日



チャン先生

の午後8時過ぎに宿舎に到着され、当院の主要な人たちと軽く夕食をとられました。その中で、翌朝に坂井瑠実クリニックを見学することになった。

見学は別室での意見交換を含めて約2時間を要した。正午から同時通訳者との打ち合わせを終え、あわただしく特別講演が始まった。チャン先生の講演はすばらしく、数多くの質問がなされた。このことにチャン先生は大変うれしく思われ、また参加者を高く評価された。研究会の懇親会にも参加され、多くの参加者と歓談された。27日(日)はショッピングの後、神戸酒心館へ行き、日本酒の作り方などのビデオ(英語)を見られ、きき酒を楽しまれた。山中伸弥先生がノーベル賞を授賞された時の晩餐会で出された純米吟醸福寿は、残念ながら飲んでいただけなかった。昼食を満喫された後、仙台へ向かわれた。

## ヨーロッパ腎臓学会—ヨーロッパ透析移植学会(ERA-EDTA)の発表

第50回ヨーロッパ腎臓学会—ヨーロッパ透析移植学会(ERA-EDTA)は2013年5月18~21日、イスタンブール、トルコで開催された(写真1)。学会の参加者数は7,665名(59%がヨーロッパ諸国、アジアから17%、アフリカから7%)。国別では多い順にイタリア、ドイツ、トルコ、フランス、スペインとヨーロッパ各国が続き、その次に中国(約310名)、日本(約280名)であった。今回の演題採用率は67.4%(1,615演題)だった。筆者が両クリニックを代表してポスター発表した(写真2)。

発表内容：① 透析量(1回の透析時間だけでなく、週当たりの透析回数)が多いと、血液検査結果が良好である。② 今まで十分に検討されていなかった線維芽細胞増殖因子—23(FGF-23)—インターロイキン-6(炎症反応や免疫応答を調節、値が高いとよくない)を明らかに低下させることがわかった。③ 血清リンやベータ2-マイクログロブリン( $\beta$ 2-MG)も明確に低下させた。なお、FGF-23は腎臓病の進行や心血管系合併症に関係し、透析患者様の生命予後にかかわるといわれている。

学会は発表のストレスもさることながら、観光に出かけることが大きな楽しみです。1453年に東ローマ帝国がオスマントルコに滅ぼされ、ビザンチン文化はイスラムの世界へ一変した。アヤソフィア(博物館)はキリスト教の教会(東ローマ帝国の代表的な遺構、ビザンチン建築の最高傑作)が、モスク(イスラム教の教会、オスマン帝国で最も格式が高い)に改修されたもの(写真4)。十字架などは取り払われたが、キリスト教の面影はいたるところに見られる(写真5)。



写真1) 学会場の入り口。



写真2) 発表風景：参加者は少なめですが、質問に答えています。



写真3) ボスポラス海峡：ヨーロッパとアジアの境界。手前がヨーロッパ。奥に見える橋は日本の建設会社が作りました。



写真4, 5) アヤソフィア：東ローマ帝国の時はキリスト教の教会。オスマントルコに征服された後、モスクに作り替えられました。今は博物館。



写真6) ブルーモスク、6本のミナレットが特徴。

# 本山坂井瑠実クリニック開院のお知らせ

坂井瑠実クリニック理事長 坂井瑠実

かねてより御影、芦屋両クリニックともに、曜日変更、時間変更がむづかしく、ご迷惑をおかけしてきました。加えてずいぶん前からオーバーナイト透析の空きをお待ちいただいている皆様方には本当に申し訳なく思ってきました。このたびやっと、神戸市東灘区本山南町8-6「東神戸センタービル」内に「本山坂井瑠実クリニック」を開院することになりました。(地図)

オーバーナイト透析・在宅血液透析・CKD(慢性腎臓病)外来を主な柱にするつもりです。今、透析は患者さんが“自分でデザインする”時代だと思っています。

本院の御影も、芦屋もクリニックは「建てる」ところから始まりましたが、このたびの本山は既存のオフィスビルの中での開院です。いろいろ多くの制約がありました。どんなものが出来上がるかと、とてもとても不安でしたが、大勢の方々の英知で、何とか思ったより素敵に出来上がる?と自負しています。

しかし申し訳ありませんが、下記の理由であまり親切な透析施設ではないかもしれません。

- 1 送迎はありません。
  - 2 最寄りの駅(JR摂津本山・阪神青木)から少し遠いです。多分12~3分かかるとでしょう。唯一阪神バス(国道バス)がビルの前で止まりますが。
  - 3 駐車場が十分確保出来ていません。
- オーバーナイトの患者さんには PM8時30分~AM7時30分 ビル前の駐車場を使用していただくことは可能です。
- 4 食堂がないので、ご希望の方には本院で作った透析食をお弁当の形で、透析中に提供いたします。
  - 5 自分でできることはなるべく自分でしていただきます。
  - 6 かならず月一度は外来診察室で診察を受けていただきます。院外処方箋です。

透析患者さんに多く見られる、かゆみ・足のイライラ等の不快な症状や独特の顔色、高血圧、貧血、血管の石灰化、アミロイドーシス、心不全等の合併症の大半は、透析不足か透析のやり方によるものと考えています。透析中に血圧が下がる、足がつる等の症状や、透析後に休まなければ動けないなど、いわゆる“透析疲れ”のある方、透析の時間・回数を今よりも少しでも増やしてください。一日は24時間しかありません。でも残念ながら“透析時間”は合併症を防ぎ、元気になる

ための独立した因子だと言われているのです。透析条件は一人ひとり違います。施設では限界がありますので在宅血液透析にもチャレンジしてください。このITの時代、機械はどんどん進化してきています。

なるべく中2日を空けないで、透析中全く何も起こらない、処置を要さないスピードで透析をし、透析後も元気で動ける透析を心がけてください。

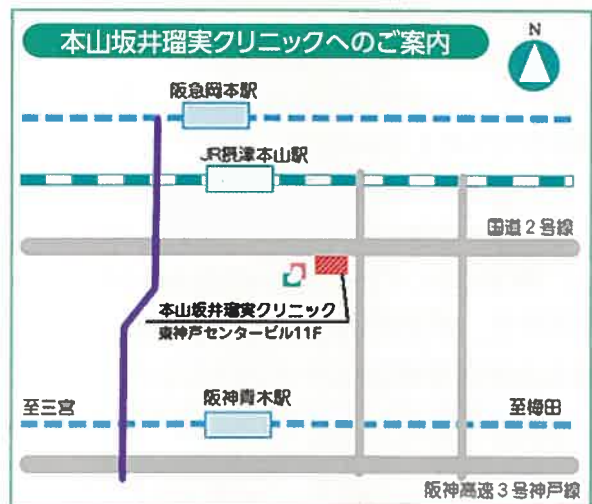
オーバーナイトも隔日透析で始めたいと思います。塩分制限は必要ですし、メタボにも気を付けてください(私には言う資格がないですね?)。

開院は8月1日。8月4日10時~14時、当院患者さん向けの見学会を予定しています。オーバーナイト透析・在宅透析の拠点にしたいと思っていますので、いま両方の施設でこれらの透析をされていらっしゃる方々には移動をお願いすることになると思いますが、まげてご了承ください。

今快適に個室で透析をしていらっしゃる皆様も、申し訳ありません。本山に移動していただきます。

御影の患者さんも芦屋の患者さんも、新しいもう一つのクリニックがどこにあるかぐらいは知っておいていただきたいと思います。お気軽にお立ち寄りください。移動をご希望の方はそれぞれの院長に申し出てください。

3つのクリニックのスタッフ、患者さんともに和気あいあいと楽しく交流出来る施設づくりを考えています。自立をモットーに、自分の透析は自分で考えて、後悔のない人生を送っていただきたいと切望します。



## 第14回友愛会定期総会を終えて

友愛会会長 永井 稔

初めに、日頃より患者会の活動に際し会員の皆様にはご理解とご協力を頂いていることに関して、心より感謝申し上げます。また、坂井理事長をはじめクリニックスタッフの皆様にもご支援を頂いていることにもお礼申し上げます。

本年4月28日神戸ファッションマート9階に於いて友愛会総会を開催致しました。出席者23名、委任状117名により総会は成立し、各議事もスムーズに御議論・御承諾頂き、恙無く終えることが出来ました。

本年度の友愛会活動方針は、次の通りです。

- 1 患者と病院スタッフとの意思疎通と交流を図るため、親睦会、懇談会、勉強会等の行事を開催する。
- 2 未加入者に会の必要性を文書等により説明し、入会を積極的に呼びかける。
- 3 NPO兵庫県腎友会並びに神戸市難病連、NPOジャスミンの活動に協力する。

本年度もすでに患者会スタッフ間の交流を図るため、5月19日にバス旅行を実施させて頂きました。12月8日にクリスマスパーティーも予定しておりますので、多くの方の参加をお待ちしております。

本年度に初めての試みとして友愛会主催の勉強会の開催に努めることを総会で申し上げました。幹事会で協議をしておりますが、クリニックの御協力を得る事が出来たので、10月6日(日)に開催する予定にしております。つきましては、開催に先立って皆様のご意見をお聞かせ願うためにテーマと参加の御意向についての無記名アンケートを行うこととしております。ご協力よろしくお願い致します。テーマについては、アンケートの結果により決定し、質問の時間も設けることも考えております。

アンケートについては、この「うえるうえる」が発行される頃には、皆様にはすでにご協力頂いたと思いますが、幹事会としてはより良い勉強会となるように努めますので、多くの方の参加をよろしく願います。

腎友会の基本理念は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」であります。透析患者数は増加しておりますが、腎友会の会員数の増加につながらず、組織力の強化が求められているのが現状であ

ります。透析患者を取り巻く医療・諸問題を解決するため、物事を成すのに「継続は力なり」という言葉がありますが、患者の声を届けるには「数が力」なのです。今ある医療・福祉制度は、高額治療費の重い負担により自らに命を絶つという悲劇をなくし、命と暮らしを守るために全腎協腎友会の活動により国や関係機関諸団体に請願を積み重ね、勝ち得たものであります。現在の友愛会の組織率は、御影60%強、芦屋50%弱であり、一人でも多くの方が加入して頂くことを願っております。加入については、各グループの幹事にお聞き下さい。

最後になりましたが、本年度の幹事を御紹介します。

### Aグループ(月水金・午前)

高嶋喜美子 山ノ井加代子 真嶋和子

### Bグループ(月水金・午後)

田中辰男 河津豊 永井稔

### Cグループ(火木土・午前)

黒田公子 長谷川芳夫

### Dグループ(火木土・午後)

内藤恭子 前田節子

### Eグループ(在宅透析・CAPD)

細谷誠

### Fグループ(芦屋)

泊一誠 岡田京子 岡田和信 北田秀樹

宮内しのぶ 柴慶子 木村裕次

熊谷峰子 櫻井恵一 熊井勝彦





## 5月19日の バス・ツアーに参加して

芦屋 泊 一 誠

一週間前から週間天気予報と睨めっこ。ツアー当日の予報が雨とあり、一日いちにち近付くにしたがって曇り後雨に変わる。何とか一日雨降らずにいてほしい! 当日の朝の予報では曇り昼から雨とのこと。7時半に御影本院ロビーに出掛けたら、幹事さん達が受付をされていた。天気のことを皆さん心配されている様子。そうしている内にも8時半の出発時刻となり、曇り空の中、喜田院長をはじめとしてスタッフが大勢参加して下さって患者家族合わせて80名が二台のバスに分乗して出発。神鉄観光の担当者より一日の予定等が説明あって、今日のツアーが食事に重きを置いているので、京会席料理をゆっくり楽しんで・・・との話。予定より早く嵐山の駐車場に着き、渡月橋辺りを思いおもいに散策。

早めの食事となったが老舗旅館渡月亭へ移動。喜田院長の挨拶と乾杯で楽しみにしていた京会席料理を頂く。次々と出てくる料理に舌鼓を打ち、思い思いに飲み物を飲んで食事中雨が降り出す。雨の降る中をバスで太秦映画村へ移動して、入り口で映画村案内図をもらい傘さしながら施設を回る。当日は映画の撮影が休みとかで楽しみが半減でしたが、ロケーションスタジオでは様々な撮影技法を分かりやすく解説してくれていて楽しめた。

今回のバスツアーは永井会長が会員スタッフに、行ってみたい場所をアンケートをお願いして多かった所が京都嵐山・映画村。京都だから食事に費用をかけていいのではないかと幹事会で決まり、天気も悪かった事もあり食事に時間をゆっくり取って良かったと思う。映画村は下調べして、前以って観たい所の順番等決めてもう一度行ってみたい所。最後に寄ったお漬物のお店ではワインの試飲や漬物の試食があって後で喉渇くのも忘れてパクパク!

名神高速を走り、御影に帰り着く頃は雨も止んでいて楽しかったバス旅行も無事終わる。

患者、スタッフそして幹事の皆様お疲れ様でした。



### 第58回 日本透析医学会 (2013年6月21～23日開催 於：福岡国際会議場)

当院からは、以下の演題を発表しました。(＊シンポジウム・ワークショップ)

＊ 隔日透析～中二日を作らない～	医 局	坂井瑠実
＊ 在宅血液透析患者さんの臨床検査値の評価	医 局	喜田智幸
長時間透析は炎症・リン代謝・脂質代謝を改善させる	医 局	喜田重矢
連日夜間在宅血液透析における透析液へのリン添加	医 局	岡本久美
在宅血液透析における透析液へのリン添加の試み	薬剤科	蔡東玲
ナトリウムイオン測定値の方法間別乖離に関する検討	臨床検査科	佐藤智香
在宅透析におけるオンコールの内容	臨床工学科	熊谷昌樹
在宅血液透析における介助者の役割と負担の実態	臨床工学科	川内順子
透析時間によってPDAの発症はかわるのか～SPP検査による比較～	看護部	市川洋子

## 編集後記

みなさまの多大なご協力のおかげで、在宅血液透析研究会は盛会のうちに無事終了いたしました。2日間を通して改めて感じたことは、全国的な在宅血液透析（HHD）への関心の高まりです。「HHDをやってみたい!」という患者さんや施設が増えていくことは、これからHHDの認知度を高め、より強い発信力を持つためにとっても大切なことです。本山坂井瑠実クリニックの開院が決まりました。新たな施設からも、どんどんHHD患者さんが卒業していけるよう、3施設が一丸となって頑張っていきたいと思えます。

（編集委員／杉本 騰寿）

発行所 医療法人社団  
坂井瑠実クリニック  
電話 078-822-8111  
〒658-0046  
神戸市東灘区御影本町2丁目11-10  
発行責任者 坂井瑠実  
顧問 三上珠実  
編集責任者 城井慶子  
発行日 平成25年7月25日  
印刷 田中印刷出版株式会社  
〒657-0845  
神戸市灘区岩屋中町3-1-4



坂井瑠実クリニックホームページ  
<http://www.sakairumiclinic.jp>